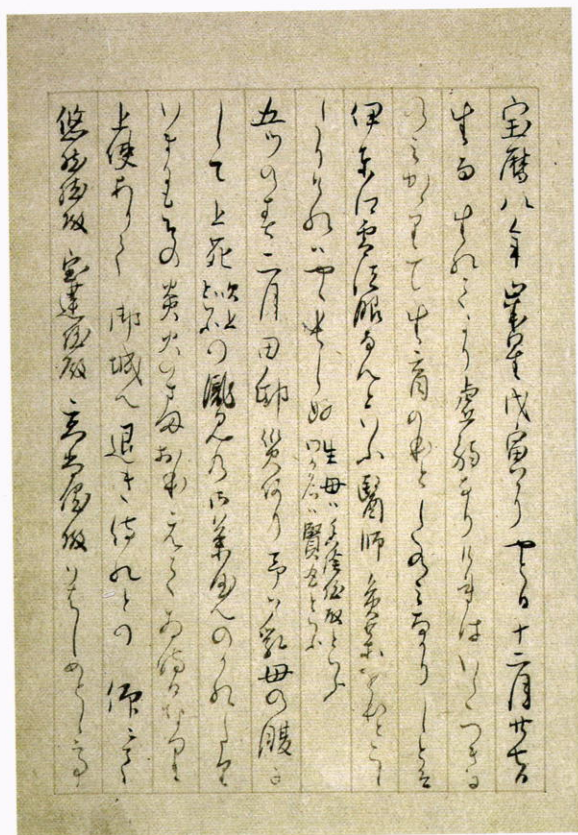


# やまとの名品

天理図書館



## うげ <sup>ひと</sup> 宇下の人ごと

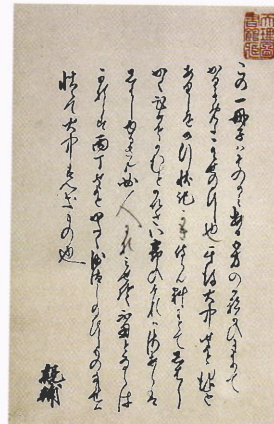
松平定信自筆

寛政5年(1793)頃 4冊

縦26.0(～26.4)cm 横17.0(～19.1)cm

本書は、江戸幕府老中として寛政改革を行った松平定信（一七五八〜一八二九）の前半生を記した自叙伝。宝暦八年（一七五八）誕生の記事に始まり、老中を退任する寛政五年（一七九三）までを記載する。定信自筆。本書の外題に「ウ下之人言」とあるように、書名は「定信」の二字を偏と旁に分けた「ウ（宇）下人」「人言」の文字による。定信は宝暦八年、御三卿田安宗武の子として江戸の田安邸に生まれる。幼名は賢丸。安永三年白河藩主松平定邦の養子となり、天明三年家督を相続し白河藩主となる。同年の天明大飢饉に際しては、質素儉約を基本に

した政策を行って、領内に犠牲者を出さなかったといわれる。同七年には幕府老中となり、寛政改革を行う。寛政五年に老中を退任する。この間の年次を追っての記事の中に、自身の生活についての記述や親友をはじめ諸大名の評価、朝廷との交渉、幕政の立案から実施の内実が詳細に記されている。本書は袋綴四冊。書体が整っているのは最初の部分のみの草稿である。第一冊の巻初に定信側近である田内親輔の識語があり、それには、定信より本書を焼却するようにと渡されたこと、伝記編纂のためにと願って、し



ばらくの間の所持を許されたと、決して人には見せず、使用後は必ず焼却するよう厳しく命じられたとある。

本書は、公開はもとより他人の閲読を予定していない著書であった。晩年に定信は草稿類や墨跡を破棄することが多いが、それを免れた本書は、寛政改革当事者による記録として貴重な価値を持つ史料である。

（天理図書館 山根陸宏）